時間制限の解釈について

１．時間制限の解釈について

①試合時間は大会本部、又は当該担当審判員が管理し、試合開始時刻を両チームに通告する。

②試合時間に達した時は、審判員はそのことを両チームに通告する。

【ケース１】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	2	0	3	1		6
B	0	0	0	0	2			2

■Ａがリードの６回表に１時間30分が経過した場合

※６回を７回と置き換えて、６回裏の攻撃まで行なう。

【ケース２】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	2	0	0	1		3
B	0	0	2	0	2			4

■Ｂがリードの６回裏、Ｂが攻撃中に１時間30分が経過した場合

※１時間30分を超えた時点で試合終了となる。審判員はその時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この最後の打者の記録まで有効とする。

２．投手の球数制限については、１日１００球を超えて投球することは出来ない。
その他事項については競技規則５の球数制限に準ずる。

３．監督が投手の所へ行く回数の制限／監督が１試合に投手の所に行ける回数は、７イニングにおいては３回以内とする。タイブレーク方式では２イニングに１回とする。

４．守備側のタイムの回数制限／捕手または内野手が１試合に投手の所へ行ける回数は、３回以内とする。なお、タイブレーク方式時は２イニングに１回行くことが出来る。

５．攻撃側のタイムの回数制限／１試合に３回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、２イニングに１回とする。

６．タイムは１分以内を限度とする。

【試合のスピード化、その他に関する注意事項】

１．打者は速やかにバッタースボックスに入ること。なお、サインはバッタースボックス内で見ること。次打者は必ず次打者席に入り低い姿勢で待つこと。投手も必ず実行すること。

２．攻守交代時に最後のボール保持者は必ず投手板にボールを置いてベンチに戻ること。

３．打者が２塁打を打ち、打撃用手袋から走塁用手袋に変える為にタイムをかける行為を禁止する。

４．打者が頭部にヒットバイピッチを受けた時には、球審は攻撃側の監督と協議し、臨時代走の処置を行う事ができる。

５．前進守備時の野手の位置については、故意に打者を惑わすことと野手の安全を考慮して、塁間の半分を目安とする。